

5 文法2 副詞・連体詞・助詞の用法

組	番号	氏名
---	----	----

① 次の各文の——線部の中で、副詞はどちらか。() に○印を書きなさい。また、副詞でないほうは、品詞名を書きなさい。

① 先生が、すぐに集まるようにおっしゃった。
先生が、静かにするようにおっしゃった。
() 形容動詞 ()

② 次回は、大輔が一人でお使いに行くそうだ。
うん、次はそうするよと大輔は言った。
() 助動詞の一部 ()

② 次の各文の——線部の中で、連体詞はどちらか。() に○印を書きなさい。また、連体詞でないほうは、品詞名を書きなさい。

① 仙台市の北側には、泉ヶ岳という山がある。
ある日、友人と泉ヶ岳にドライブに出かけた。
() 動詞 ()

② 「地図を見てください、これが泉ヶ岳です。」
「この山がそうですか。市内から近いですね。」
() 名詞 ()

③ 次の表のそれぞれの助詞のはたらきを、ア～エの中から選んで記号で書きなさい。

助詞の種類	語例	はたらき
格助詞	が・の・を・に・と・へ・から・より・で・や	ア
接続助詞	て(で)・と・ば・ものなら・から・ので・が・けれど(けれども)・のに・ても(でも)・ものの・し・たり(だり)・ながら・つつ・なり等	イ
副助詞	は・も・こそ・さえ・すら・でも・だって・まで・だけ・ばかり・のみ・しか・きり・ほど・くらい(ぐらい)・など・とか・やら・なり・ずつ・か等	ウ
終助詞	か・かい・かしら・の・な(なあ)・こと・ね(ねえ)・よ・さ・せ・ぞ・や・わ・とも・な・ものか等	エ

- ア 主として名詞の後に続いて、後に続く言葉との関係を示す。
- イ 活用する語(用言・助動詞)の後に続いて、前後をいろいろな関係で接続する。
- ウ いろいろな語について、その後には様々な意味を添^そえる。
- エ 主として文の終わりについて、話し手・書き手の気持ち^そを表す。